

## は し が き

平成元年度に改訂された高等学校指導要領により従来の社会科は地理歴史科と公民科に再編成されました。

国際化をはじめとする時代の要請と公民教育の専門性や系統性を重視するという趣旨で独立した教科となった公民科は、よそおいを新たにして平成6年度の教育課程から登場しています。

公民科の「現代社会」「倫理」「政治・経済」の三つの科目は、従前の社会科教育の成果を継承するとともにそれぞれの科目の性格や内部構成を新たにしたものとして設定されています。このことのねらいは、社会の急激な変化にともなう青少年の自我形成の遅れ、社会的連帯感や責任意識の低下などの状況が指摘される中で、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体性のある心豊かな人間を育て、公民としての資質を養うことにあります。

このような公民科の性格とねらいに即した授業を行うには担当する教師の計画・実践・評価の各段階での授業改善に向けての努力が必要になります。具体的には次のような諸点が考えられます。

計画段階では、限られた時数で科目の目標を達成するには、生徒の実態を踏まえて指導内容の精選や重点化をどのように進めるかということです。

実践段階では、主体的に学ぶ意欲を導き出す指導方法や指導技術をどう工夫するかということです。

評価段階では、今までとかく「知識、理解」中心になりがちだった評価に「関心、意欲、態度」をどう組み入れ、授業を活性化するかということです。

当教育センターでは、従前の社会科科目と比して新たな内容をもつ新公民科の「現代社会」「倫理」「政治・経済」に焦点を当て研究を進めてきました。

この公民科の年間指導計画の作成と授業改善の工夫についての研究報告が各高校の実践の一助になれば幸いです。

なお、これまでこの研究にご理解とご協力を賜りました関係各高等学校の校長先生はじめ諸先生方に心から感謝の意を表します。

平成7年3月31日

新潟県立教育センター所長

青 木 一 男